

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力和幅広いバースベクティブを養うことができる。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生 習得 目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			

21301	歴史学入門	歴史を歴史学として見る眼を養うとともに、特定テーマに関してグループごとの調査・発表を行う。	1					*	○	○			○	
21303	グローバルヒストリー	一国史の枠を越えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2	*					○				○	○
21302	歴史学と現在	戦後日本の史学史を学ぶことを通じて、歴史学の存在意義を理解する。	1						◎				○	
41628	中国史概説1	・東洋史なかでも中国史の基本的なことからについて理解を深める。 ・古代中国の政治や社会の特徴を歴史的に捉え、その中国史全体のなかでの意味を考察することができるようになる。	2,3,4				*		△				○	○
41629	中国史概説2	・東洋史なかでも中国史の基本的なことからについて理解を深める。 ・古代中国の政治や社会の特徴を歴史的に捉え、その中国史全体のなかでの意味を考察することができるようになる。	2,3,4				*		△				○	○
41630	東アジア史概説A1	・中国史、並びに東アジア史を学ぶために最低限必要な知識の獲得を目指す。 ・中国史の時代区分についての基本的な知識を獲得する。 ・歴史の変動が持つ中国史・東アジア史全体の中での意味について学ぶ。 ・中国史・東アジア史の基本的な用語についての知識を獲得する。	2,3,4	*					△				○	○
41631	東アジア史概説A2	・中国史、並びに東アジア史を学ぶために最低限必要な知識の獲得を目指す。 ・中国史の時代区分についての基本的な知識を獲得する。 ・歴史の変動が持つ中国史・東アジア史全体の中での意味について学ぶ。 ・中国史・東アジア史の基本的な用語についての知識を獲得する。	2,3,4				*		△				○	○
41632	東アジア史概説B1	・中国史、並びに東アジア史を理解するための基本的な知識を会得する。 ・東アジアの特質を歴史的に理解できるようになる。 ・中国における歴史的事象を、東アジア史という枠組みのなかで捉えられるようになることを目指す。	2,3,4				*		△				○	○
41633	東アジア史概説B2	・中国史、並びに東アジア史を理解するための基本的な知識を会得する。 ・東アジアの特質を歴史的に理解できるようになる。 ・中国における歴史的事象を、東アジア史という枠組みのなかで捉えられるようになることを目指す。	2,3,4				*		△				○	○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>
--	--

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	---

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力和幅広いバースベクトイブを養うことができる。</p>
---	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q				Q1	Q2	Q3	Q4							
				Q1	Q2	Q3	Q4											
41602	中国秦漢時代史特殊講義	・当該時代の政治史・制度史上の論点について、基本的なことがらを理解する。 ・研究史整理について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。 ・史料批判について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。	2,3,4						*								○	○
41603	中国唐宋時代史特殊講義	・当該時代の歴史についての基本的な知識を理解する。 ・東アジアにおける歴史認識問題について基本的な事項を理解する。 ・当該時代を対象とする歴史研究の特色や問題点を理解し、歴史研究の方法について考えられるようになる。	2,3,4	*													○	○
41604	中国明清時代史特殊講義	・当該時代の歴史についての基本的な事項を理解する。 ・研究史整理の方法を理解し、会得する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4						*								○	○
41606	東アジア政治制度史特殊講義	・主として中国古代における、政治史・制度史上の論点について、基本的なことがらを理解する。 ・研究史整理について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。 ・史料批判について、基礎的な手法を理解し、身に付ける。	2,3,4							*							○	○
41607	東アジア社会経済史特殊講義	・明清時代を中心とした、東アジアにおける社会経済の状況を理解する。 ・東アジアの社会経済史に関する基本的知識を会得する。 ・研究を進める上で必要となる視点や方法を身につける。	2,3,4						*								○	○
41634	中国秦漢時代史演習A1	中国秦漢時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*									○	◎		△		△
41635	中国秦漢時代史演習A2	中国秦漢時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4						*				○	◎		△		△
41636	中国唐宋時代史演習A1	中国の唐代～元代の間に著された史料の講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4						*				○	◎		△		△

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を入りと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねること、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>

主履修分野のカリキュラム		科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
科目番号	授業科目														
41637	中国唐宋時代史演習A2	中国の唐代～元代の間に著された史料の講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4					*		○	◎		△	△	
41638	中国明清時代史演習A1	中国明清時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4					*		○	◎		△	△	
41639	中国明清時代史演習A2	中国明清時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4					*		○	◎		△	△	
41640	中国秦漢時代史演習B1	中国秦漢時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4					*		○	◎		△	△	
41641	中国秦漢時代史演習B2	中国秦漢時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4					*		○	◎		△	△	
41642	中国唐宋時代史演習B1	中国の唐代～元代の間に著された史料の講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*						○	◎		△	△	
41643	中国唐宋時代史演習B2	中国の唐代～元代の間に著された史料の講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4					*		○	◎		△	△	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>
--	--

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	---

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広める。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献あたり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>
---	--

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
41643	中国明清時代史演習B1	中国明清時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*						○	◎	△	△
41645	中国明清時代史演習B2	中国明清時代の歴史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4		*					○	◎	△	△
41646	東アジア政治制度史演習A1	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4	*						○	◎	△	△
41647	東アジア政治制度史演習A2	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4		*					○	◎	△	△
41648	東アジア社会経済史演習A1	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4			*				○	◎	△	△
41649	東アジア社会経済史演習A2	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	2,3,4				*			○	◎	△	△
41650	東アジア政治制度史演習B1	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4			*				○	◎	△	△
41651	東アジア政治制度史演習B2	東アジアの政治制度史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4				*			○	◎	△	△

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広める。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献に当たり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			

41652	東アジア社会経済史演習B1	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4	*						○	◎		△	△	
41653	東アジア社会経済史演習B2	東アジアの社会経済史に関する史料講読を通じ、 ・漢文語彙・中国語語彙の意味・用法等の調べ方を会得する。 ・中国史研究・東アジア史の研究、特に社会経済史研究に必要な専門知識の基礎を身につける。 ・レジュメの作り方、発表の仕方を体得する。	3,4		*					○	◎		△	△	
41654	東洋史学研究法演習A	・自身の興味・問題意識の具体化と絞り込みを行う。 ・自身の研究テーマを設定する。 ・1年間の前半部分で学習・調査した成果を文章化してまとめる。	3,4	*	*					○	○	○	◎	△	△
41655	東洋史学研究法演習B	・自身の興味・問題意識の具体化と絞り込みを行う。 ・自身の研究テーマを深化させる。 ・1年間の後半部分で学習・調査した成果を文章化してまとめる。	3,4			*	*			○	○	○	◎	△	△
41656	東洋史学基礎実習A	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4	*						◎	○	○			
41657	東洋史学基礎実習B	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4		*					◎	○	○			
41658	東洋史学展開実習A	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4			*				◎	○	○			
41659	東洋史学展開実習B	・東洋史学の研究方法や基礎知識を身につける。	2,3,4				*			◎	○	○			
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*					△	◎	◎	◎	△	◎
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*			△	◎	◎	◎	△	◎
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文科学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*			○	◎	◎	◎	○	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	歴史文化学コース (東洋史学主履修分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
-----------------------	------------------------

<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>
--	--

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
-----------------------	---

<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広める。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なとするスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあたり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論考にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いバースペクティブを養うことができる。</p>
--	---

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4							
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)							○	
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)							◎	
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*							◎	
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*							○	
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*									◎	○
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*								◎	○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。